



本当に、困った！

迷岡宮農組合
のぼる
菊池 昇 さん
＝69歳、宮守町鱒沢＝

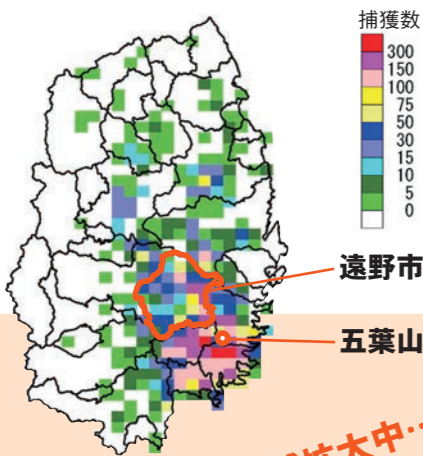
組合の大豆畑が食害に

5～6年前から、組合の大豆畑が食害に遭うなどの被害がありました。そこで、組合では電牧を一部に設置。しかし、電牧がある農地の被害は減少しましたが、今度は他の場所がやられました。今年、電牧をさらに延伸する予定です。対策は、個人でやるには限界があります。これからは、地域が一丸となって対策していく必要があるのではないのでしょうか。

平成25年度の 県内のシカ捕獲数分布図

資料提供／岩手県自然保護課

五葉山から、放射状に生息域を拡大していることが分かる。



捕獲数
300
150
100
75
50
30
15
10
5
0

遠野市
五葉山

生息域拡大中……

捕獲 (駆除)

▷実施隊・応援隊による捕獲▷捕獲補助金の交付▷わなの貸し出し▷駆除期間拡大—など

有害捕獲

有害捕獲期間は、山にいるシカを実施隊が捕獲。シカの繁殖拡大を抑えている。

防除

▷農家・集落による電牧設置への補助▷効果的な電牧の導入方法の検討—など

電牧の設置

効果的に電牧を設置し、シカが農地に侵入しないようにする。

人材育成

▷猟銃購入への補助▷各種研修会や捕獲講習会の開催—など

研修会・講習会

シカ対策に取り組む人材・地域を育成。

シカじ、困ったもんだ。

間227件もあった。このほか、貴重な高山植物が食害に遭った事例も報告されている。被害を受けている関係者は、シカに頭を抱えている。シカは一見するとかわいらしいが、場合によっては私たちの日常生活に悪影響を及ぼす、有害鳥獣なのだ。

3本柱でシカに挑む！

増加するシカ被害を食い止めるため、本市は平成24年度から▽捕獲(駆除)▽防除▽人材育成—を3本柱に、官民連携による取り組みを強化して

きた。「捕獲」では、猟友会を中心に結成した鳥獣被害対策実施隊(以下、実施隊)と、その活動を補助するニホンジカ捕獲応援隊(以下、応援隊)が、有害捕獲の対象となる4月から9月の間、積極的な捕獲を行っている。また、里へ侵入させない取り組みとして、電気牧柵(電牧)を通して、電線張り巡らした柵。以下、電牧の設置を進める「防除」、電牧設置の補助や、講習会・研修会の開催、狩猟免許取得の支援などを通じた「人材育成」にも力を入れている。

まだまだ油断できない

3本柱の取り組みが少しずつ効果を表し、一部の地域では被害が軽減した。しかし、シカは移動する動物。被害が無かった地域で新たな被害が報告されるなど、シカ対策は一進一退の状況だ。

遠野のシカ対策3本柱



▷実施隊・応援隊による捕獲▷捕獲補助金の交付▷わなの貸し出し▷駆除期間拡大—など

▷農家・集落による電牧設置への補助▷効果的な電牧の導入方法の検討—など

▷猟銃購入への補助▷各種研修会や捕獲講習会の開催—など

有害捕獲

有害捕獲期間は、山にいるシカを実施隊が捕獲。シカの繁殖拡大を抑えている。

電牧の設置

効果的に電牧を設置し、シカが農地に侵入しないようにする。

研修会・講習会

シカ対策に取り組む人材・地域を育成。

わなの設置

わなによる捕獲を行う。

平成26年度のシカによる被害

農業被害額

約1億3千万円

交通事故発生件数

25件

JR釜石線の運行の乱れ

227件



食害に遭ったキャベツ畑

WARNING

要注意!

おいしい農作物、根こそぎいただくぞ!

道路に突然飛び出すぞ!

逃げ足は、かなり速いぞ!



市内の牧場を走るシカの群れ

ニホンジカ

ほぼ日本全域に生息する草食動物。大きさは成獣で約60kg。牧草やササ、木の皮など、ありとあらゆるものを食べる。群れで行動し、繁殖期の秋になるとオスは複数のメスと交尾。約20日の妊娠期間を経て5月から7月にかけて出産する。メスはその後1年半程度で妊娠可能となり、繁殖力は高い。日本全国で生息数が増え、食害などの被害が問題視されている。



シカのフン
直径2cm程度の球体。

シカ道
シカは決まった場所を群れで歩く習性があるため、ケモノ道ができる。

特集

シカ対策最前線

群れで人里に現れては、農家が一生懸命作った農作物を食い荒らす、困ったニホンジカ(以下、シカ)。シカによる被害に立ち向かうため、本市は平成24年度から対策を強化してきた。4年目の今年、シカ対策の正念場。市民一丸による対策の最前線を追った。

シカはなぜ増えた?

本市でシカの生息域が拡大したのは、この数年間の出来事だ。大船渡・住田・釜石にまたがる五葉山周辺で生息数が増え、徐々に放射状に広がったと言われている。公共牧場から被害が始まり、現在は市内全域に及んでいる。生息数の増加は▽シカの繁殖力が非常に高い▽自然界に天敵がない▽温暖化の影響▽耕作放棄地の増加による生息場所の拡大—などが原因だと考えられている。

食害から交通事故まで

生息数の増加と生息域の拡大に伴い、表面化したのが農作物の被害だ。夜間を中心に群れで行動するシカは、農家が手塩にかけて育てた農作物を、あつという間に食い荒らしてしまう。平成26年度の、本市の農業被害額は約1億3千万円にも上る。また、シカが道路に出没することが原因の交通事故は25件発生。JR釜石線では、シカとの接触による運行の乱れが年



「シカたない」じゃ、終われない！

被害を食い止めたいと、立ち上がった人たちがいる。シカの捕獲に取り組む実施隊と応援隊だ。最前線で活躍する両隊の活動に密着した。

最強の連携モデル

シカ被害の拡大を受け、市は平成24年に、猟友会のメンバーを中心に鳥獣被害対策実施隊を設置。国の制度に乗せする形で、市も捕獲補助金を設けるなど、同隊によるわなと猟銃による活動を支援している。さらに、実施隊の負担軽減を目的に、狩猟免許が無い農家らでも捕獲活動に参加できる、応援隊を平成26年に設置した。

隊員確保が課題

捕獲数は増加しているが、市内の生息数は大きく減っていない。それほどシカの繁殖力は強い。また、学習能力の高いシカの逃げ足は、捕獲数の増加に伴い年々速くなっているため、捕獲が難しくなっている。さらに、実施隊の隊員確保も課題だ。シカ対策の最前線で活躍する両隊を支えるためには、被害対策への理解を深めること、若者・女性の参画も視野に入れた人材育成が必要と言える。



ニホンジカ捕獲応援隊 隊員

菊池 重征 さん
=71歳、青笹町=

狩猟免許が無くても、
できることで協力したい。

数年前からシカの食害に苦しめられ、何とかできないものかと考えていました。そんな時、応援隊が立ち上がり、参加することに。応援隊は、自分の農地にわなの設置場所を提供し、後は、わなの見回りなどをするだけ。狩猟免許が無くても、誰でも協力できます。シカが捕獲されるたびに食害も減り、本当に助かっています。



鳥獣被害対策実施隊 新人隊員

菊池 亘恭 さん
=37歳、土淵町=

他人任せにはできない。
自分の農地は自分で守る。

5年前に帰郷し、実家の畜産業を継いでいます。帰ってきて目の当たりにしたのがシカの食害。大切な牧草を食われてたまるかと、実施隊に志願しました。今は、先輩のハンターに手取り足取り教わり、狩猟や有害捕獲の腕を磨いています。早く一人前になり、自分の農地はもちろん、地域の農地もシカの被害から守っていきたくです。



鳥獣被害対策実施隊 隊長

太田代 雅敏 さん
=68歳、宮守町宮守=

シカの増加を止めるには、
まだまだ隊員が足りない。

応援隊の協力で実施隊の負担はかなり減り、捕獲数も大幅に伸びました。しかし、学習能力の高いシカの捕獲は、年々難しくなっているのも事実。実施隊の高齢化も課題です。シカの繁殖力に負けないためには、両隊の活動を息の長い取り組みにしていかなければなりません。担い手の育成が、今後のカギを握るでしょう。

応援隊とは…

ニホンジカの食害に悩む農家を中心に、平成26年2月に市が設置。狩猟免許が無くてもできる、わなの見回りやわなの設置補助を行い、実施隊と連携して活動にあっている。特に、わなの見回りは、実施隊の大幅な負担軽減につながっている。講習を受ければ、農地を持つ人なら誰でも隊員になることが可能だ。



応援隊向けの講習会

人材育成

密着

応援隊の菊池重征さん(青笹町)と、実施隊の大洞正律さん(同)の連携した活動に密着。



応援隊員は、狩猟免許がある実施隊員に、自分の農地付近などでわなの設置を依頼する。



わなにシカが掛かっていた場合、実施隊員に連絡し、駆除を依頼する。



応援隊員は、毎日わなの見回りをする。わなが外れていた場合は、再度仕掛ける。

最前線で活躍する両隊。昨年度は約2,300頭捕獲

捕獲 ニホンジカ捕獲
応援隊
隊員数100人

鳥獣被害対策 捕獲
実施隊
隊員数78人

連携



専用キャップ
専用ベスト

やりがいがあるけど、捕獲は難しいぞ。

腕章

猟銃
(猟銃は、所持免許が必要。猟銃の価格は30~50万円程度。弾の価格は1本500円程度)

実施隊とは…

シカなどによる被害拡大を受け、猟友会のメンバーを中心に平成24年8月に市が設置。市の非常勤職員として、シカの捕獲にあたり、増加を抑えている。結成当初は62人だったが、現在は78人まで増えた。隊員のほとんどは60~70代。高齢化による担い手不足が、今後の課題になってくる。

密着

及川光正隊員と汀幸一隊員(いずれも遠野・松崎班)の有害捕獲活動に密着。



いざぞ!

シカが群れている場所には、気配を消してそっと移動。

草を食べるシカの群れ↓



シカ発見。猟銃を構えた瞬間、シカはこちらの気配に気付き一目散に森の中へ。捕獲できずに終わった。最近シカの逃げ足が速くなり、捕獲できない日も多い。



自動車ですカが生息する山奥へ。実施隊は2人一組で活動。シカは夜間の出没が多いことから、捕獲は、早朝と日没前に行われる。



申請書類

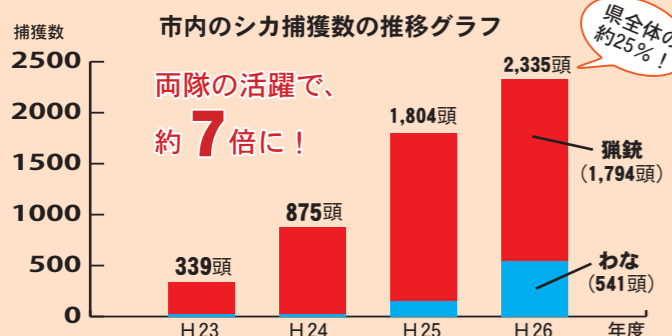
定期的に捕獲補助金申請を市に対して行う。補助金は、国からの補助を含め1頭当たり約1万5千円。猟銃の所有経費や弾代、ガソリン代、労力を考えると、決して高くはない。

捕獲した際は、記録→解体→埋却

捕獲した際は、捕獲補助金申請用の記録を行い、シカの一部を解体して中に埋める。



これが大変!



わなの見回りは、ホントに助かる!

ヤバい(汗)。

地域で対策。



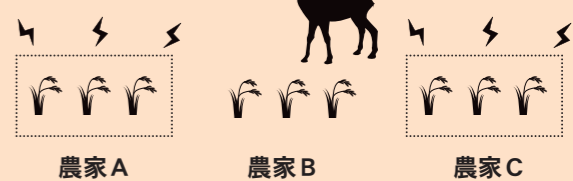
みんなでやれば、こわくない！

電牧は、地域で協力して設置しよう！

山と里の間に、切れ目なく電牧を設置すれば、シカの侵入を防ぐことができる。個人よりも、地域で広域に設置すれば、被害の軽減はもちろんのこと、費用や労力の軽減にもつながる。市は、団体などによる電牧の広域設置を後押しするため、設置方法や費用助成の相談に応じている。まずは、電話を！

防除

これまでは…



電牧は個人で設置されることが多く、設置していない場所からシカが侵入する傾向にあった。

これからは…

地域で連携した広域の電牧

防除

みんなでやるシカない！

シカ対策の本格化から3年が経過し、シカに打ち勝つための戦略が分かってきた。それは、市民が丸となって防除ラインを構築し、里にシカを寄せ付けないことだ。地域で取り組むべきこと、そして個人にもできることを紹介する。

点から線へー地域の連携がカギ

実施隊や応援隊などの尽力により、徐々に効果が表れている本市のシカ対策。さらに被害を食い止めるには、シカが暮らす山と、私たちが暮らす里の境界線を明確にし、共存関係を保つことが重要であることが分かっていた。

具体的には、地域が連携し、シカが里に侵入できない環境を作ることが一つだ。これまで農家が個人単位で設置することが多かった電牧を、地域が連携して広域に設置することが効果的だと考えられている。集落や農に取り組みする山際にシカが生息する山際に、効果が上がっている事例が報告されている。

電牧の広域化は、地域の協力が必要不可欠。市は、講習会の開催、国・県と連携した交付金の活用などを通じて、地域の取り組みを後押ししていく考えだ。また、一度増えたシカを減らすことは、繁殖率や学習能力の高さから、簡単なことではない。私たちは、これからはシカと向き合っていく必要がある。私たちが、これからはシカと向き合っていく必要がある。私たちが、これからはシカと向き合っていく必要がある。

野の豊かな里山の環境を守っていくために、できることから行動に移そう。シカ被害に打ち勝つためには、遠野一丸となって対策するシカないのだ。

防除 人材育成



5月8日、市は電牧設置講習会を初開催。地域での導入を検討する農家がたくさん参加した

特集「シカ対策最前線」

個人でも。

防除 個人のちょっとした取り組みが、シカ被害の軽減につながる。下記のように、協力してもらいたい。

音や光でシカを追い払う

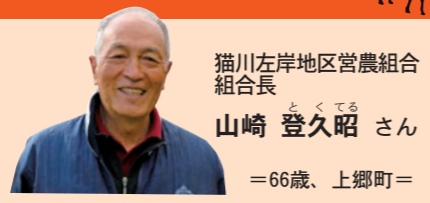
シカを発見したら、音や光で追い払おう。里にシカを近づかせないことが大切だ。

環境整備をして隠れ家を作らない

荒れた農地はシカの絶好の隠れ家。定期的に、草刈りなどの環境整備をしよう。

残飯などを野外に捨てない

残飯や不要な農作物はシカのエサになる。野外に放置するのはやめよう。



猫川左岸地区営農組合 組合長
山崎 登久昭 さん
=66歳、上郷町=

地域一丸の電牧設置で被害軽減に成功！

組合で協力し、山ぎわに約5*の電牧を設置。広域に電牧を設置してからは、被害はほぼなくなりました。設置作業や維持管理は、電牧についての講習や研修を受けた若手組合員を中心に、組織的に行なっています。電牧の破損や不調に関する連絡体制も構築し、地域一丸でシカ対策に乗り出しています。



防除

農地に張り巡らされた電牧

捕獲

効果的にわなを設置しよう！

シカは、農作物を求めて電牧沿いを歩く習性がある。地域で連携して設置した電牧の周辺に、わなを仕掛ければ、シカを効率的に捕獲できる。

里に近づくのは、もうやめろぜ…



捕獲

実施隊、応援隊に参加しよう！

実施隊や応援隊の取り組みを理解し、活動にも積極的に協力しよう。

※電牧には、人体には影響のない範囲の電流が一定間隔で流されます

お知らせ

人材育成 狩猟免許試験実施

実施隊で活動するためには、狩猟免許を取得する必要があります。市内で行なわれる狩猟免許試験と、合格を目指すための予備講習会についてお知らせします。詳細は、問い合わせください。

- <狩猟免許試験>
- ★試験日時 9月6日(日)、9～17時
 - ★試験会場 宮守体育館ほか
 - ★試験内容 ①知識試験②適正試験③技能試験

- ★受験手数料 5,200円
- ★申込締切 8月21日(金)
- <予備講習会>
- ★日時 8月23日(日)、9～17時
- ★場所 みやもりホール
- ★受講料 無料
- ★申込締切 8月7日(金)

人材育成 猟銃取得費用を助成

市は、新規で狩猟免許を取得し実施隊で活動する人を対象に、猟銃取得などに掛かる経費の一部を助成します。詳細は、問い合わせください。

★助成対象費用と助成額 散弾銃購入費用>費用の1/2(上限10万円) 猟銃保管庫および装弾保管庫購入費用>費用の1/2(上限2万円) 銃の所持許可手数料>手数料の1/2

人材育成 応援隊講習会を開催

応援隊への参加希望者を対象にした講習会を開催します。詳細が決まり次第、広報遠野や遠野テレビなどでお知らせします。

★開催時期 9月頃を予定

★対象 市内の農家などで、シカなどによる被害に悩んでいる人

◎問い合わせ 市農業振興課 (☎62-2111内線850114)